見たまゝ聞いたまゝ

千葉縣下視察の感想

那珂郡佐野村
統計主任　根本富男

千葉縣下の統計優良町村たる飯野村並に御宿町の視察を誌上を借りて見たまゝ聞いたまゝの感想を申述べ皆様に御報告致すと同時に今後の統計事務刷新改善の資に供したいと思ふ。

誠に有意義の視察

「百聞は一見に如かず」と言ふが全く意義ある視察であつた、他縣を見て初めて自分の村の調査方法や書類の整備不徹底の處がよくわかる。

書類の整備に一驚

先つ視察目的地たる飯野村と御宿町を訪ねた處、理事者と主任者が快く迎へてくれ、直に一室に案内さるゝまゝに後をついて行くと會議室には待つて居ましたと言はん許りに統計調査の材料資料其他諸帳簿が山と積まれてあつた、此の整備した書類を一目見ただけで良く出來てをるなと言ふ事が第一に判つた。

至れりに盡せり

そして調査員の實地調査と言ひ、又資料の提供と言ひ、一言半句の申分がない、實に調査員の熱心眞面目さには恐縮の外ないがそれも局に當る町村の理事者と主任者の指導の宜しき結果だと思ふ、全く至れりに盡せりだ。

精神優遇が一番

調査員の優遇と言ふ事に就て水を向けると理事者の曰く、或程度迄は手當も必要だが第一精神的優遇方法が一番だと言ふ、調査員には年手當十二三圓から二十四五圓位であるが精神優遇では遠く本縣の及ぶ處でない、調査員は町村の名譽職と同じ待遇をなし、賦役人夫特免と言ふ恩典等もあるから全く調査員の優遇は本縣で見る事が出來ない。

統計思想の普及

統計思想の普及に就て聞いて見ると今では一般町村民が自覺して全然普及の要を認めないと言ふ事だが之れ迄にした理事者や主任の苦心には誠に涙ぐましい話しがある、初めて普及する時は毎日毎夜吏員總出て各部落に出張し講話やら座談會やらで寢る目もねずに努力したそうだ、しかしその報ゐで只今では統計の頭文字を見たゞけで統計の必要なる事柄が一般に認識せらるゝ樣になつたと言ふことである。

會議は月一回

調査員の指導訓練は毎月一回必ず施行する事になつて居る、そして集計表の作製とか米生産統計の基準票調製に當つては會議の外に約三十日位調査員を招集して役場で主任と一所に製票して全然誤謬の無い樣にして居るそうだから全く指導訓練には抜目がない。

懸命に努力せん

中里村調査員　双葉生

「茨城統計」生れて未だ日が淺いが號を趁ふて面目彌々革まり、斯道にたづさはる吾等は、正に海上に於ける燈臺其のものにも比し、絶好の指針として愛慕措く能はざる所である、本誌を手にし今回表彰の光榮に浴せし各位の多きに感激し茲に駄文を草し一調査員としての所懷を披瀝し併せて各位の指導と鞭撻とを乞ひ仍て以て精進是務めんとするものである、社會萬般の施設計畫固より一とし統計に俟たざるなきは喋々を要せず、而して其の調査の如何に重要性を帶びその表す所精密正鵠を得たるものたらざる可らざるや言を待たない、殊に輓近社會生活の複雜化に伴ひ調査年と共に繁雜多岐を加へ調査員の職責愈々重大なるものあるを痛感せざるを得ないが、昨秋政治問題化せる米豫想收穫高云々の如きは我等の以て甚だ遺憾とせし所、吾人必死の統計も時に於て斯の如き運命に遭遇するかと思へば深く愧ぢ且つ戒しめねばならない、思ふに統計は一般社會人の認識と理解とに俟つなくんば得て覓められない、我等は須く統計思想普及に專念し以て統計事務の完璧を期せんとするものである、本村には曩に統計主任鶴田氏の表彰されたるあり、今亦調査員鈴木國一郎氏の此の光榮に浴するあり、兩氏の榮譽は固より共に我等の名譽とも謂ふべきである剩へ縣下統計界に群鷄の一鶴然たる模範村賀美の隣接する惠みあり、吾人は大いに意を强うし責任の重大なるを認識し、採長補短切磋琢磨、他調査員と協心戮力以て眞の統計を作り、よりよき茨城、明るき日本建設の資料提供に懸命の努力を吝まざらん事を誓ひたい。

筑波統計調査員會

筑波郡筑波町統計調査員會は八月十七日開會、全員出席、米生産統計基本調査ノ件米作農家調査、秋蠶豫想掃立數量調査等各件を附議した

◇　◇　◇

西茨城	二六	二四	三	一四	五（※一）	三						
那珂	一〇九	九一	六	三三	三六	七四						
久慈	七八	六四	七	四三	九	五八						
多賀	六七	五四	六（×一）	二（△一）	一七	四四						
鹿島	四一	三四	八	二	三	三三						
行方	二四	九八	八	二六（△二）	二九	六三						
稲敷	九五	六八	一	三〇	三	五三						
新治	七三	六〇	一四（×一）	三七（△一）	五	五六						
筑波	三四	三三	四	九	八	二						
眞壁	五五	四三	三	二四	七	三四						
結城	六	三	—	三	—	三						
猿島	一七	一三	一	二三	—	二三						
北相馬	三五	三三	五	二	六	三三						
合計	九二四	七四六	八六	三二四	二〇六	六〇六						

備考　×印收入役△印雇※印常設委員

◇盛會を極めた

統計事務講習會

町村長其他講習生八百

◇

本縣主催第十四回統計事務講習會は去る七月三十日より三日間涼味萬斛の那珂郡平磯尋常高等小學校に於て開催された第一日は川崎統計課長の挨拶により開會、次いで統計協會々長たる山本總務部長から懇篤な訓示があつて、直ちに開講、內閣統計局より招聘の講師友安統計官の國勢調査及人口統計に關する三日間に亘る熱心懇切な講義があつた、講習生は七百四十六名の大多數で町村長、助役等八十余名を算し本會開設以來嘗てなき盛會を見たが、ために盛夏の平磯は一段の賑はひを呈した、講習證書授與者數を郡市別に示せば次の通りである。

郡市名	申込者數	出席者數	講習證書授與者數 町村長助役	講習證書授與者數 書記	講習證書授與者數 調査員	計
水戸	一	一	—	—	—	—
東茨城	一三一	二九（×一）	一〇	三	六	二〇

統計と親の教へに無駄はなし
進む文化に正しい統計

各地統計雜信

調査員諸君
何なりと奮つて御通信を願ひます

統計主任者派遣

內閣統計講習會に

本協會の事業として本年度から市町村に於ける優良統計執務者養成のため內閣統計講習會出席者に對し一部旅費の補給をなし派遣する事になつたので左の如く選拔の上去る七月二十二日から東京市本鄕區東京帝國大學工學部新館大講堂で開かれた第十七回內閣統計講習會に出席せしめたが二十日間に亘る講習も八月十日を以て終了孰れも講習證書を受領して歸縣した。

西茨城郡岩間町書記　宇都野　久三
鹿島郡大同村書記　大崎　健爾
新治郡新治村書記　小倉　茂
結城郡水海道町書記　小島　久一郎

尙講習科目は次の通りであつた。

△一般統計△人口統計及國勢調査△勞働統計△經濟統計△產業統計△數理統計△統計實務△經濟學△憲法及行政法△財政學

學事年報查閱

學事年報乙欵及諸表查閱は八月十六日より同月二十三日迄の間に於て市町村學事擔任吏員の集合を求め、縣統計課より各擔當者が出張、それ〳〵携帶せる昭和九年度市町村歲入歲出決算書又は精算書、昭和九年度學事年報（本年四月報告）昭和八年度學事年報（八月報告分）私立學校圖書館等に關する昭和九年度歲入歲出決算書又は精算書に依り細密なる查閱を行つた、查閱日割左の通りである

郡市名	集合場所	查閱月日
東茨城	茨城縣廳	八月十六日
西茨城	茨城縣廳	八月十七日
那珂	茨城縣廳	八月十九日
久慈	茨城縣廳	八月二十日
多賀	茨城縣廳	八月二十一日
鹿島	鉾田町役場	八月十六日
行方	行方郡農會	八月十七日
稲敷	茨城縣蠶業取締所 江戸崎支所	八月十九日
新治	土浦小學校	八月二十日
筑波	筑波郡元自治會館	八月二十一日
眞壁	眞壁郡元自治會館	八月二十二日
結城	結城郡元自治會館	八月二十二日
猿島	猿島郡元自治會館	八月二十三日
北相馬	北相馬郡元自治會館	八月二十三日
水戸	茨城縣廳	八月十六日

鹿島統計調査員會

鹿島郡沼前村統計調査員會々議は八月十五日同村役場に開催、縣統計課よ

り同郡擔任の齋藤囑託が臨席、午前九時、林沼前村長の開辭に次いで齋藤囑託より同村統計事務の狀況並統計調査員の活動等に付注意及激勵したる後、縣提出の指示、注意事項を述べ續いて村提出の會議事項に就き農林商工統計報告規則取扱細則に基いて米生產統計調査を主とする各種調査方法に對し詳細に渉り說明並調査上に於ける諸注意を爲したる上、質疑に答へ更に引續き國勢調査に關し協議を遂げ双方共極めて熱心に研究して午後一時十五分閉會した。

當日の出席者は左の通りである。

（縣統計課）齋藤囑託、△沼前村長林猛三郎、助役海老澤藤之助、書記清水四郎、同小沼壽雄、調査員篠原靜、宇野八三郎藤枝誠三、川澄富之助、江幡阜苗、江幡參衞、長谷川保雄、林恭種、林恭一、小沼富壽、小橋一郎　加藤鐵造　石川傳七郎、海老澤松之助、堀田源藏、川崎卯之吉、林敬三、高根澤清男、畠井與、關水正治

多賀南部學事統計研究

多賀郡南部學事統計事務研究會は八月中報告すべき學事年報乙欵及諸表に關し製表並取調上に付研究の爲八月十五日日高村役場に於て開催され縣より同郡擔任の成瀨屬が出席した、午前九時豊田同會長の開辭に依り開始し成瀨屬より學事年報乙欵諸表の性質及各諸表の製表並記入上に付詳細說明し質疑に答へ午後十二時十分閉會した。出席者は左の通りである。

坂上村大江書記、國分村鴨志田書記、河原子町大川書記、鮎川村益子助役、久下谷書記、助川町長山書記、日立町小澤書記日高村豊田村長、佐藤書記、豊浦町國井書記、櫛形村村山書記、黑前村弓野助役

那珂西部研究會

那珂郡統計事務研究會西部支部では七月八日仝郡鹽郷村役場に於て統計事務研究會を開き縣統計課より川崎統計課長、渡邊屬が臨席、午前十時大森鹽郷村長の開辭についで川崎統計課長より統計に就ての一場の挨拶あり、それより會議に移り、渡邊屬から縣提出の農林統計につき詳細說明の後質疑應答を重ね何れも熱心に研究された、出席者左の如し

鹽郷村長大森大次郎、仝收入役青木甚之介、仝書記青木金之介、仝小室政雄、仝飯田朋春、葛西信雄、仝岡山信雄、仝高部祐一、小瀨村書記橋本信雄、大宮町書記阿久津佐之介、瓜連町囑託龍崎由之介上野村書記萩谷晶之、靜村書記寺門一郎仝川上千代臣、大場村書記三村市太郎、玉川村書記寺門幸夫、大賀村書記大森健太郎、山方村書記根本孫次、鹽田村書記岡崎輝吉、野口村書記西村勝太郎、長倉村書記大森一之、八里村書記田澤壽、檜澤村書記岡崎四郎

北郡東部研究會

北相馬郡東部統計事務研究會は七月六日文村役場に開催、縣統計課より郡擔任の菊池主事補が臨席した、午前十時三十分文村統計主任の開辭に次で菊池主事補より縣提出の會議事項に依り指示及說明あり、尚當日は戸籍會をも併會したるを以て人口動態調査小票の作成上の注意等ありて午后一時三十分閉會した。出席者左の如し。

高須村飯岡助役、杉山書記、川原代村飯田書記、下妻書記、北文間村加藤書記、來栖書記、文村海老原書記、篠崎書記、布川町林助役、石塚書記、文間村大野助役、寺田書記、東文間村山中助役、坂本書記

仝　七月六日　岩田清衞（新治郡新治村小貫忠之）
仝　七月八日　倉持伴作（蒔島郡森戸村倉持喜三郎）
仝　七月一日　野口長松（北相馬郡大井澤村須賀義雄）
飯田富（出野仙吉）
笠見三郎（寺田伊三郎）
仝　七月十日　千ヶ崎一郎（行方郡要村千ヶ崎惣平）
仝　七月十五日　小室政雄（那珂郡鹽郷村岡崎光）
仝　八月三日　久松信一（新治郡眞鍋町小野勇）

町村統計主任異動（上は新任　弧括内舊）

昭和十年六月十七日　鈴木米藏（筑波郡谷田部町中村豊之助）
昭和十年八月一日　上山正己（筑波郡小田村鴻巢重次郎）
昭和十年八月十六日　宮本智觀（筑波郡島名村木村郁之助）

統計調査員異動（上は新任　弧括内舊）

昭和十年六月二十七日　荒木米吉（新治郡土浦町船串鷗吉）
仝　六月三十日　鎌田正夫（鹿島郡德宿村山崎哲男）
仝　七月一日　森田久一郎（東茨城郡綠岡村小林重治）

寄贈圖書

昭和九年	米麥統計	香川縣
昭和八年	いしずゑ（八月號）	福岡縣統計協會
昭昭八年	香川縣勢一覽	香川縣
昭和八年	香川縣統計書（自一編至五編）	香川縣
昭和八年	山口縣勢一班	山口縣
昭和九年	岡山縣統計年報	岡山縣
昭和八年	關東局管內現住人口統計	關東局
昭和八年	埼玉縣統計書	埼玉縣
昭和八年	農林統計グラフ	農林大臣官房統計
昭和八年	京都府統計書	京都府
昭和八年	朝鮮の人口統計	朝鮮總督府
昭和八年	群馬縣統計書	群馬縣
第五卷（七月號）	資源	資源局
昭和九年	蠶絲類及眞綿統計表	農林大臣官房
昭和九年	福岡縣の戸數及人口	福岡縣總務部
昭和八年	長野縣統計書（自三編至七編）	長野縣
昭和五年	國勢調査報告（香川縣）	內閣統計局
昭和五年	國勢調査報告（石川縣）	內閣統計局
	統計速報	岡山縣總務部統計
昭和九年	古里村勢要覽	眞壁郡古里村
昭和八年	大阪府統計書	大阪府
昭和八年	群馬縣統計書	群馬縣

短歌

題『初秋雜詠』

丹四郎選

賞　行方郡武田村　高柳　正

藻苅舟ここだ浮べる湖の面に秋淺き日のかがやきにけり

蘆むらのま近に浮きて鳴く鴆の靜けき波にゆられつゝゐる

秀逸　筑波郡大穗村　柳町涼風

產土の秋の祭も近づきて今朝裏畑に牛蒡堀りにけり

北相馬郡高野村　倉持香邨

朝霧のいまし晴るゝか谿川の瀨の音にまじり鳴鳴くきこゆ

猿島郡幸島村　小倉宮市

秋茄子を盛れる目笊の古りにしを殊に愛でつる母にて在す

稻敷郡太田村　五十嵐康尊

山家の日ざし閑けし庭先に赤きもろこし干し並べあり

行方郡武田村　境勇

穗にいでし稻田の上の電線に來て鳴く百舌鳥の高音透れり

稻敷郡生板村　大野芳雄

月さえてうつるもの影あり〳〵と秋明けき夜となりにけり

山傍の開墾畑のもろこしの葉ずれかそけく秋さりにけり

新治郡志士庫村　山口義道

秋淺き夜のウインドに咲き明る夕顏の花にしばし見惚れぬ

行方郡手賀村　曾根健

飛行機の姿消えゆく空の果て地の果すみて秋しづかなる

北相馬郡菅生村　倉持保光

朝戸出の庭べの草に置きまさる露ふりこぼつ風の淸しさ

鹿島郡中野村　大川貞

五風十雨なべての作に惠まれて秋の稔りぞ豐なりけり

行方郡武田村　塙草風

草むらに鳴く虫のこゑきゝつゝ月の明りにたゝずむわれは

多賀郡南中郷村　綠川欣一郎

夕露のひかりひそけき脊戸庭の草に一もりて鳴く虫のこゑ

鹿島郡沼前村　川澄春暢

魂棚の灯かげも何時か消え果てぬ亡き兒の夢に覺めし眞夜中

行方郡玉造町　大和田霞舟

風吹けばさざ波立つる池の面に影をみだして咲ける秋萩

北相馬郡東文間村　堀越正直

湯上りの眼に涼しくも搖れにつゝ暮れさきの庭の夕顏の花

北相馬郡大野村　吉田秋情

客去りし後の閑けさ店先の柳を吹ける初秋の風

久慈郡小里村　沼田松元

那珂郡芳野村　綿紡

坪庭の松の根本に鳴く虫のこゑととのへる昨日けふかな

○　四郎

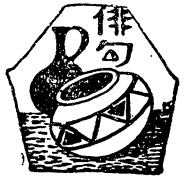
幽なるものにぞ見つれ晝の月秋立つけふの空の碧に

夕河岸の明り親しみたもとほる土手の薄も穗にいでにけり

次回課題「秋雜詠」「收穫」十首以內

宛名　茨城縣廳內統計協會

締切　十月二十日



題『蟬』『青嵐』

前田猶春選

○　稻敷郡太田村　五十嵐康尊

蟬の聲ラヂオにまじり聞えくる

○　行方郡武田村　境谿水

葦原の青嵐とはなりにけり

○　那珂郡木崎村　小泉古山

朝蟬にもの干す庭の晴れてゆく

○　行方郡玉造町　かすみ

朝あれの俄かに晴れて蟬時雨

○　行方郡玉造町　大和田霞舟

岩をかむ波のしぶきや靑あらし

○　鹿島郡沼前村　川澄春暢

夕蟬や近き森より子守唄

○　西茨城郡大池田村　高野高亮

鳴く蟬にゆく曙の山路かな

○　新治郡志士庫村　山口義道

蟬鳴いて夕まぐれなる吾が家哉

○　行方郡手賀村　曾根健

寂しさや古寺に鳴く朝の蟬

○　鹿島郡諏訪村　石崎勘次郎

晝の蟬聞きつゝねむるやぐらかな

○　北相馬郡菅生村　倉持保光

雷鳴やしばしやみたる蟬の聲

○　稻敷郡阿見村　村山三笑子

滿山の雨晴れわたる蟬涼し

○　新治郡瓦會村　增子よし

蟬涼し樹の影澄める潦

○　北相馬郡高野村　倉持香邨

山莊の晝しつかなり蟬の聲

○　行方郡延方村　黑須一雅

蟬鳴くや杣の寢て居る松の下

○つる岩の雫や青嵐　那珂郡鵜郷村　高部樂風
○光り落　同　青木青風
○籬越しに見ゆる社や青あらし　筑波郡大穂村　春泉
○谷ぞこに水汲む人や青嵐　同　柳町涼風
○汲み置きの砥水くさりぬ蟬時雨　北相馬郡大野村　吉田秋情
○愛し子や帽子に蟬をおさへたる　筑波郡島名村　宮本青禾
○書にうみて心うつろや蟬時雨　鹿島郡豊郷村　石津思水
○蟬鳴くや書院の窓に陽の匂ふ　筑波郡久賀村　關野玄月
○青東風のみなぎる朝の翠微哉　北相馬郡東文間村　古琅庵宵雪
○青東風やくるまの後の砂ほこり　稲敷郡奥野村　坂本鯨園
○青東風や蠶莚洗ふ堰の水　新治郡七會村　木村隆雄
○大利根を渡れば高し蟬の樹々　行方郡武田村　塙草風
○寺山の蟬なつかしき歸省かな　西茨城郡北川根村　荻沼白鷗
○まろふどに畫餉の膳や青嵐　鹿島郡中野村　大川貞
○握り來し兒の蟬なかずなりにけり

○青嵐楫にしたゝる雫かな　行方郡玉造町　かすみ
○蟬鳴くや納屋にかぶさる大榎　同　出久根とき子
○雨あがり來て蟬一つさわやかに　同　武田村　鳥次ゆた香
○青東風や大沼一つ陽を彈く　同　玉造町　人
○蟬鳴くや茶屋の日覆の古幟　同　出久根曉翠
○人靜かに蟬聽く會のテント哉　同　出久根とき子
○高樋をこぼるゝ水や蟬の聲　同　出久根曉翠

（賞）

蟬鳴きて僧房くらき朝餉かな　行方郡玉造町　出久根曉翠

（賞）

青東風や芦の葉先のやごの殼　猿島郡幸島村諸川　小倉宮市

次回課題　『案山子』『柿』

締切　十一月一日　用紙　半紙二ツ折十句以内

宛名　茨城縣廳内統計協會宛　賞　秀逸に粗賞を呈す

柳川

山中緋郎選

題『國勢調査』

（十　秀）

失踪の倅へ觸れず調査員　神戸市須磨區　須磨浦人
妹の配遇死別と書くつらさ　猿島郡幸島村　小倉破空木
申告書山の小屋へも配付され　西茨城郡北川根村　白鷗
三夫婦並べて誇る申告書　行方郡武田村　塙草風
出産へ名ッケズと書く申告書　行方郡武田村　境谿水
路地の子を邪魔に國勢調査員　東京市日本橋區　榎太刀丸
坊やの名始めて書いた申告書　筑波郡島名村　鯉淵浩花
調査員妾へ少しロが過ぎ　行方郡玉造町　出久根とき子
亡くなつた子に泣けてくる申告書　横濱市磯子區　平井痴翁
國調へ妻外出をしつゝこい　新義州　宮崎一裸具

（五　客）

木賃宿出入に惱む調査員　京城黄金町　小島大口坊
盛り場は調査の宵へ物淋し　那珂郡柳河村　木内咲久
有の儘申告するすにこの騷ぎ　東京市目黒區　雉野鳴鳳
内緣のまゝで淋しい申告書　大阪市西成區　葵德三
國調へアジトも共に書かせられ　長野　榮村　小林琴の舍

（人）

菊を褒め子を褒め國勢調査員　行方郡玉造町　出久根でく坊

（地）

調査員額と年とを見くらべる　行方郡武田村　鳥次とり坊

（天）

調査員別な暮しを覗かされ　神戸市兵庫區　尾野摩耶坊

次號課題　「決算」　葉書一人五句以内

〆切　十月二十日　宛名　茨城縣廳内統計協會

賞　三才粗賞を呈す

編輯後記

選擧肅正は國家的大運動となつて進展する、國勢調査は既に豫習も終つて本格的な活動にはいる、夏から秋へかけて身邊とみにざわめきを覺えた、そのざわめくなかで作りあげたのがこの九月號だ。

×

けれども『統計は國是の基礎なり鏡なり』といふのだから、世のざわめきなとに捉はれてはならぬ、正しき數字で國を活かすのがわれ〳〵の務めだ――統計關係の皆さんと共にさうした氣持は寸時も忘れないつもりだ。

×

前號誌上から發表した國勢調査の縣人口豫想は、意外の興味をそゝつて、豫想の『はがき』が、續々と舞ひ込んでゐるが、いよ〳〵募集締切は近ついた、どなたでもいゝから隣保誘ひ合つてドシ〳〵應募して下さい、之れもざわめく中に、所謂忙中閑ありといふものか。

×

讀者諸君からの投稿は號を追うて益々多きを加へつゝある、編輯者たる私の大いに喜びとするところであるが、屢々いふ如く茨城統計は諸君のものである『御自分のものだ』といふお考へで一層可愛がつていたゞきたい、そしてもつと〳〵いゝ材料を私共に惠んでいたゞきたい。

×

投稿は別に規定を設けておきませんが、成るべく一行十七字詰めに願ひたい。

―富岡如夢―

茨城統計と廣告の効果

「茨城統計」は縣下三百八十ケ町村及び各市町村の統計調査員三千九百名は勿論縣下各種團体、會社、工場等に配付し、中央各省、道府縣へも漏れなく配付するものにて廣告の効果偉大なるものがあると信じます。

□本誌廣告料金は左の通りです。

特別	一頁(表紙裏表)	金貳拾圓
	半頁(同)	金拾五圓
普通	一頁	金拾圓
	半頁	金五圓
	四分ノ一	金參圓

□同一廣告を引續き二回以上のときは一割五分、五回以上のときは二割の割引をします

□廣告に寫眞挿入又は木版を要するものは其の費用を別に申受けます

□廣告料は前納に願ひます

茨城縣廳

茨城縣統計協會

昭和十年九月十三日印刷
昭和十年九月十五日發行
(隔月一回十五日發行)
一部金拾錢
水戸市北三ノ丸茨城縣廳
茨城縣統計協會內
發行兼編輯人 川崎末吉
水戸市南三ノ丸一〇七ノ二
印刷人 柴博
水戸市南三ノ丸一〇七ノ二
印刷所 柴印刷所
水戸市北三ノ丸 茨城縣廳內
發行所 茨城縣統計協會